



杉谷ひろば

杉谷さんとともにまちを創る会

2012年12月1日発行

No.22

向日市寺戸町辰巳4-1-101号

杉谷ひろば(連絡先は頁下)

市民参加でまちを変えよう!

ホームページ: <http://sugi.pupu.jp/>

総選挙一最大争点は『脱原発』



杉谷伸夫・58才
向日市議会議員・市民クラブ
上植野町イトピア在住

12月16日投票の衆議院議員総選挙に向け、様々な政党が結成・集合・離散し、面白くなってきました。しかしムードに流されず、政策で判断したい。私たちの願いは何よりも、生活の悪化に歯止めをかけることと、ひとたび事故が起これば破滅する原発を終わりにすることです。先日、福島などから京都に避難している方々が政府の復興庁に対して思いを訴える場が持たれました(2面参照)。福島原発事故による避難者は約15万人と言われます。被曝した子どもの健康への不安、母子避難・二重生活の苦難、住居と仕事の不安、経済的困難等、先の見えない苦しみが語られました。被害者の権利が保障されず、なぜ苦しまなければならないのか。このような社会を変える為、しっかりした選択をしたいものです。(11月30日・杉谷)

市民の皆さんの声

11/10市民参加でまちをつくる会他より

市民参加でまちをつくる会11月例会のテーマは、「市内巡回バスをめぐる動き～向日市地域公共交通検討委員会を傍聴して」でした。例会その他でお聞きした皆さんのご意見を紹介します。

あなたのご意見も、ぜひお寄せ下さい。

- 市内巡回バスは、ずっと前に議会で請願が通っているのでは。いつまでかかっているのか。長岡京はとっくに走らせているのに。まず走らせること。
- 競輪場は来年無くなるのか? (「一時的ではあれ経営が持ち直しているの、少なくとも来年無くなることはない」との説明に) 僕は競輪が好きだけど、皆が廃止するというなら仕方ないと思う。でもいったいどうなっているのか、はっきりしてほしい。(…競輪場の行く先について)

ては、多くの市民から賛否両方の立場から「来年無くなるのか?」という質問を聞きます。)

- 議会で議員の姿が見えない件は、私の友達も「おかしい」と言っていた。モニターで議員の顔を写してはどうか。それと、議会を一度市民会館でやってほしい。それなら皆見に行くと思う。
- JR向日町駅のバリアフリー工事が始まるが、駅前是不変わるのか? 駅前にはタクシー数台で一杯になるので、車を留める場所がない。ポリボックスを移動してもらえないだろうか。

杉谷ひろばの催し案内

- 場所: 杉谷ひろば(向陽幼稚園斜め向かい)

12月8日(土)10~12時 市民参加でまちをつくる会
議会報告の後、自由に意見交換。参加歓迎!

12月9日(日)10~12時・ビデオを観る会

『塩花の木々、希望のバスに乗る』(韓国の非正規職撤廃の闘いを描くドキュメンタリ)



連絡先

TEL 090-8384-5984(携帯) FAX 075-932-1325

メール peace@fa2.so-net.ne.jp ホームページ <http://sugi.pupu.jp/>

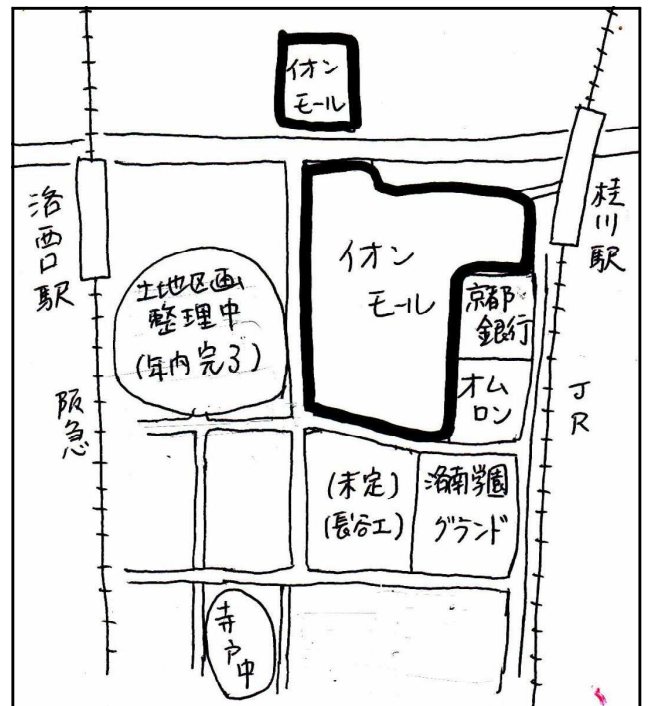
JR桂川駅前

イオンモール来年着工
急がれる市内中心の活性化

★12月7日(金)19時～市民会館で
事業者による開発基本計画の説明会

11月21日、向日市に(仮称)イオンモール京都桂川新築工事の開発基本計画届が出されました。商業施設として、店舗が1階～3階、シネマが3階、駐車場が地下1階と地上3、4階にあり、一部6階建てです。建築工事の着手予定は、来年3月1日頃となっています。現在、線路側にオムロンヘルスケアに続き京都銀行の建物が建設中で、長年動かなかったキリンビール跡地に、本格的に商業施設が建設されることとなります。

しかし、買い物が便利になると喜んでばかりはられません。巨大商業施設がオープンすれば、周辺の買い物客がごっそりイオンモールに吸い取られ、向日市中心街の既存の商業施設の衰退が、以前より懸念されています。特に東向



日駅前の象徴ともいえるイオンは、客の激減が予想され、同じイオン系列でもあるため、将来的に撤退の心配があります。向日市中心市街地の活性化対策は、地元商店街関係者だけでなく、向日市全体に関わる問題でもあります。

11/27 向日市議会が開会

地方分権に伴う多数の条例制定や補正予算などが提案されています。いくつか紹介します。

- 第5小学校、第6小学校のエアコン整備事業
- 暴力団排除条例
- 向日市道の構造や公園の基準を定める条例等

提案された議案は向日市のHPで閲覧可能。
「市議会→議案・議決結果→平成24年第4回定例会」

原発事故・子ども被災者支援法 避難者がつくる公聴会に参加

杉谷 伸夫

11月28日、京都市内で、復興庁の職員を招き、福島原発事故の影響で京都などで避難生活を送っている人たちの訴えを伝える公聴会が開かれました。この公聴会は、今年6月に制定された「原発事故子ども・被災者支援法」の運用方針に避難者の声を反映させようと、私もスタッフをしている団体「うつくしま☆ふくしま in 京都」が準備したもので、福島県などから京都に避難している約50人が参加しました。

公聴会は、避難者13人が原発事故当時の状



向日市まつりで「原発も放射能もいらない」パネル展示

況と避難してきた経緯と、今求める支援について訴えました。「とにかく子どもを放射能から守りたい」の一心で、夫を被災地に置いて母子避難してきた方が多く、定期的な健康診断への支援の他、住宅・仕事の支援、離れて暮らす家族にあう為の交通費支援などの経済的な支援などを訴えられました。被災者支援法に基づく支援の基本方針の決定は、来年2月頃になるとのこと。復興庁に対し、避難者から出された意見が、どう反映されたかを、改めて場を持って報告してほしいと要請しました。

また先日、洛西乙訓地域に避難されている方数家族と支援者で「洛西向日葵の会」を作りました。また交流の機会を持ちたいと思います。

杉谷伸夫の議会論戦

～一般質問の予定～

★杉谷議員の一般質問は、**12月7日（金）朝10時の見込みですが、ひょっとすると前日6日（木）の夕方最終になるかも**かもしれません。傍聴していただける方は、前日夕方6日（木）に市役所の議会事務局、または杉谷議員まで電話でご確認ください。
(市役所代表931-1111/杉谷090-8384-5984)

1 大飯原発事故から市民を守る対策を！

大飯原発直下のF6断層の調査が行われた結果、活断層である疑いが強まりました。ところが、原子力規制委員会は「地滑りの疑いも否定できない」として、大飯原発の停止を求めませんでした。

そこで万一の大飯原発事故に備えて、被曝から市民を守るための向日市も対策が必要です。

①大飯原発事故に備えた対策を緊急につくること
特に大切なことは、事故直後の対応です。福島原発事故では、多くの市民が事故直後に多量の放射性物質を浴びました。原発事故時の避難計画を向日市単独で作ることは無理ですが、市民を無用の被曝から守るための対策は可能です。市の対策を問います。

②食材による内部被曝を防ぐこと
チェルノブイリ原発のあるウクライナ政府の公式報告書によると、原発事故から四半世紀が経過した現在、様々な健康障害が増え続けています。原因は食べ物による低線量の内部被曝です。ある小学校では、正規の体育の授業を受けることの出来る生徒は485人中わずか14人。汚染地域全体で「健康な子どもは6%」といます。そこで、給食食材だけでも放射性物質の測定を行うなど、内部被曝から市民、子どもを守る対策を求めます。

③「原発に頼らない地域社会づくり」について
向日市本庁舎の電気は、今年9月より原発依存の関電以外から購入しています。今後も更に継続・拡大するよう求めます。

2 第2保育所の整備計画をオープンに！ 第5、第6保育所の耐震改修を早急に！

公立第3保育所が来年3月で閉園し、民間の新保育園が4月から開園します。新園を巡っては、防災安全面と園庭の環境等に対し、保護者から不安が噴出しました。原因を突き詰めていくと、そもそもあの敷地が保育所の設置場所として適していたか、また180人の定員が適正であったか、という根本的な問題に行きつきます。

そこで新園設置に至る検討過程を検証し、次に控える第2保育所の建て替え計画について現在の

検討状況を聞きます、そして今後市の基本的な考え方をオープンにし、検討過程に保護者、保育士も参加できるような進め方をすることを求めます。

また第5保育所、第6保育所の早急な耐震改修計画を示すことを求めます。

3 市内巡回バスを必ずスタートさせること

10月31日、向日市地域公共交通検討委員会の第4回目の会合が開かれ、向日市民の生活交通の維持・確保にむけて、4つの検討案が示されました。

- ・巡回バスの導入
- ・デマンド型交通の導入
- ・老人福祉センター送迎バスの運行サービス拡大
- ・既存路線バスの路線再編

来年1月下旬～2月頃には、最終の検討委員会が開催され、報告書がまとめられる予定となっています。検討に1年半の歳月と1千万円近い予算を投入した経緯から、「何も走らせない」という結論は100%あり得ません。市長の決断を求めます。そして、来年度は本事業に関してどのような進め方を考えるかを問います。

杉谷伸夫の活動日誌（11月）

- 10/31(水) 向日市地域公共交通検討委員会傍聴
- 11/ 1(木) 議会活性化委員会・議会報告会特別検討会
- 2(金) 向日市都市計画審議会傍聴
- 3(土) 脱原発・団結まつりに参加
- 4(日) 福島事故避難者と焼き肉パーティー
- 6-7 総務常任委員会視察（浜松市・富士市）
- 8(木) 議会活性化委員会・議会報告会特別検討会
- 10(土) 市民参加でまちをつくる会例会
- 12-16 全国市町村議会議員研修に自主参加
- 17-18 向日市まつりで「原発・放射能から命を守るパネル展」
- 20(火) 議会活性化特別委員会
- 21(水) 京都市民放射能測定所スタッフ
- 24(土) ビデオ上映会「チェルノブイリからの報告」
- 27(火) 向日市議会12月定例会開会
- 28(水) 原発被災者支援法・京都公聴会に参加

市内巡回バス

検討委員会を傍聴して

吉武 一貞

第4回向日市地域公共交通検討委員会（10月31日）へ行きました。調査会社が作ったカラフルなグラフ入りの41頁にわたる資料が傍聴人にも配られ、その社員が説明するという相変わらずのパターンで進行します。これまでの会議をふまえて、ようやく四つの対策案を提示する段階？になっています。①巡回バスの導入、②デマンド型交通の導入、③老人福祉センター送迎バスの運行サービス拡大、④既存路線バスの路線再編、です。次回は来年2月までに開いて、本委員会の最終報告にしたい、とのことでした。

委員の一人が、向日市議会での市の答弁の矛盾を指摘していました。ひとつ、第3回の検討委員会（1月30日）以来9ヵ月放置されているにも拘らず、市内巡回バスの件は公共交通検討委員会で検討中であり、と答えていたこと。ひとつ、国交省の行った「近畿圏パーソントリップ調査報告書」の速報版が3月に出ていたにも拘らず、中々出る見込みのない同最終報告書を待つ、と述べていたこと。

出席の各委員の内、向日町警察署からは高齢者の事故防止、市民側からは市役所などへの交通手段の確保、また待ち望んでいる市民に向けて2~3の案を含めて中間報告を望む、などの発言があり、その通りだと感じて帰って来ました。

自然散策

良いお知らせがあります。会報No.16（6月号）で、「小畑川の河川工事でカワセミを見かけなくなった。どこに行ってしまったのか」と書きましたが、最近、川石やブロックなどに止まりながら、魚を狙うカワセミを見かけるようになりました。乙訓橋周辺でよく見ますが、洛西高島屋近くの小畑川でも見ることができました。

みなさんも小畑川に沿って歩いてみてください。水面近くをまっすぐに進む青い鳥を見かけたら、それがカワセミです。冬が近づき、小畑川にはセキレイやカモなどの鳥もたくさんいます。心ませるひとときを過ごせます。

それから、前号で報告したフジバカマのことで訂正です。「乙訓の自然を守る会」に問い合わせたところ、10月中旬に咲いているのは昔中国から移入した園芸種だそうです。野生種のフジバカマは9月を過ぎれば終わってしまうようで、大原野の自生地は絶滅したとのこと。野に咲いているものを初めて見たので、感激のあまり未確認のまま書いてしまいました。（唐沢）

（唐沢）

連載 ポイント解説

向日市の歴史

鈴木 健弘

第15回 長岡（6）

今、長岡京から以後の過去を振り返っていますが、この国の過去については判らないことが多いので、それを一般の常識に組み込むことは大変難しい。が日本の歴史は一国として連綿として厳しくも暖かく守られて来たように思われる。純歴史学的考察を無視して、我々の過去を追いそれらしき諸事を考える時、長岡京から平安京への新しい遷都の苦難は、既に六世紀後半から七世紀前半のいわゆる飛鳥時代からも繰り返している。史実については不明瞭部分が多い

が、推古朝を中心に少しずつ朝廷を軸とする都らしき世界が開けて行く。この主役は推古天皇（在位592~628）の前後から大化改新（645）または平城京遷都（710）、延べにして約百二十年間のドラマがある。これは大和時代の末期、所謂古墳時代の末期へとつづく。つまり歴史上極めて波乱に富んだ時代であり。大和盆地南部の地『飛鳥』時代としてやがて続く平城京へ引き継がれて行く。

この時代をより活性化させた大化改新は、国家統一に向けて各地の豪族は私地私民と共に朝廷に従属したが、一部豪族の抗争が激化し葛城、平群（へぐり）さらには大伴、物部（もののべ）そして程なく蘇我氏の台頭が始まる。朝廷の主権を維持するための対応は聖徳太子に委ねられ、ここに大化改新を通して飛鳥時代の政治、経済、社会、文化の新しい進化が始まる。

いずれにしてもこれらの事実を今に伝えてくれるのは新しく利用されるようになった漢字の素購らしい力である。